

平成24年7月27日

一研究科紹介一 大学院医歯薬保健学研究科
分野融合による医歯薬保健学の新展開
～高度専門医療人による先端的医療・研究開発を目指して～

急速な少子・高齢化により、社会的要請として、がん、認知症、循環器疾患などの高齢者に多い疾病の克服があり、先端的な生命医学の進歩に基づいた高度で先進的な医療の開発と新しい視点での健康の維持・増進の方策が求められています。

大学院医歯薬保健学研究科は、本年4月1日に、霞キャンパスが有している人的資源や機能を最大限に活用した新たな組織として、医学・歯学・薬学・保健学の医療系分野が一体となり、その教育・研究・臨床の発展並びにより高度なチーム医療を担うことのできる高度専門医療人養成等を目的として、従来の大学院医歯薬学総合研究科及び大学院保健学研究科を改組・再編の上、発足しました。

新研究科では、霞キャンパスの特徴と機能を最大限に活用し、①旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、②学術の高度化、複合化に対応できる研究活動の活性化、③異分野融合による Inter-professional education の充実と実践、④新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作り等、従来の研究科では成し得なかった、より柔軟な教育・研究体制の構築を目指しています。

◎ 教育・研究上の主な取り組みについて

I 附属施設の特色

1. 附属医療人大学院教育・研究センター

大学院教育を実質的かつ円滑に実施・推進し、国際的な医療研究者を養成することを目的として、医歯薬保健学全ての分野の大学院生を対象にスタートアップ生命科学コースワーク、アドバンスト生命科学コースワーク、外国人講師による英語プレゼンテーション演習等を開講し、生命科学研究を推進する上で不可欠な研究手法を習得させるとともに、海外で通用する情報発信能力を養成し、グローバルに活躍できる医療研究者の育成を目指しています。これらのコースワークおよび演習等を医歯薬保健学全体からそれぞれ年間20名程度の大学院生が受講し、それによって修得した基礎研究能力は、修了後の先端的な研究の推進に大きく寄与しています。

2. 附属先駆的看護実践支援センター

看護環境の向上及び良質な看護を地域に提供するための先駆的な看護実践能力を有する看護師を支援することを目的としています。センターに認定看護師教育部門を置き、平成19年度より緩和ケア認定看護師教育を開始、そして平成21年度より新生児集中ケア認定看護師教育を加え、熟練した看護技術と知識を有する質の高い看護を実践できる人材の育成に努めてきました。平成24年度からは、看護師に対する現任教育として、FD研修会等を開催し、臨床で勤務する看護師の看護実践能力の向上を目指します。また、各関係組織との深い連携の下に、充実した支援体制を構築し、先駆的看護実践への有益かつ効果的支援を展開します。

3. 附属先駆的リハビリテーション実践支援センター

三次元動作解析装置、脳機能評価システム、多チャンネルテレメータシステム等の機器を擁し、リハビリテーション環境の向上及び良質なリハビリテーションの提供を目的として運用されています。また当センターは、機器の利用・操作法の講習会を定期的に行い、各種の講習会やセミナーに協賛するなど、地域で活躍するリハビリテーション従事者の育成・支援並びに先駆的リハビリテーション実践を行うための研究に活用されています。

II 外部資金獲得による主なプログラム

1. 国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム

「東南アジア歯科医療高度化推進ツィニングプログラム」

平成 19 年度に採択された本プログラムでは、発展途上の東南アジア歯科医療の高度化支援のために、3 つの東南アジアの大学と共同して留学生を受け入れ、英語の授業を開講し、博士課程の専門コースにおいて、基礎研究実習を実施しています。

また、今年度は、継続事業として、インドネシア、ベトナム、カンボジアの3 つの拠点大学を受け入れ大学として申請したところです。

2. 博士課程教育リーディングプログラム

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」

平成 23 年度に採択された本プログラムでは、関連部局と協力し、一貫した人材育成カリキュラムにより、分野横断的・実践的学問領域である「放射線災害復興学」を確立し、3 つの専門分野コース（放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コース）において、「放射線災害から生命を護る人材」、「放射能から環境を護る人材」、「放射能から人と社会を護る人材」の育成を目指しています。放射線災害に適正に対応し、明確な理念の元で復興に貢献できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できる分野横断的統合的グローバルリーダー（フェニックスリーダー）の輩出が期待されます。

3. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」

広島大学は、平成 19 年度より 23 年度まで鳥取大学、島根大学と共に参画した「銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム」において、がん薬物療法専門医、放射線腫瘍医、がん看護専門看護師やがん専門薬剤師の育成を行い、がん放射線治療に特化した放射線腫瘍学講座の新設を行いました。

平成 24 年度からは、岡山大学をはじめとする中国・四国の 9 大学と一緒に「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」に参画しています。これは、多職種の高次元がん専門医療人を養成する教育プログラムです。高度なレベルで標準化された域内統一カリキュラムによる教育と大学間連携による大学、分野を超えた専門職教育を実践し、高度専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高次元がん専門医療人を養成する予定です。

広島大学大学院医歯薬保健学研究所では、従来より基礎医学から臨床医学まで様々な世界的な研究を行ってきました。

今後とも基礎的臨床的研究において、原爆放射線医科学研究所とも連携し、中・四国地方におけるがん治療の拠点として、均てん化と標準化に貢献して参ります。

4. 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム」

平成21年度に採択された本プログラムでは、本研究科と広島市内に位置する広島市立大学、広島工業大学の異分野連携により、医療系の知識を有した情報系・工学系技術者及び情報工学系知識を有した高度医療人の養成並びに地域に根付いた高度専門職業人を輩出することを目的として実施しており、経費支援が終了した現在も事業を継続しています。

今年度は、本プログラムの後継事業として、新たに広島国際大学を連携大学に加えて事業を展開すべく、申請を行ったところです。

5. 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム（医療系）

「アジア・環太平洋ネットワークを通じた若手研究者・医療人による学際的研究の展開」

平成21年度に採択された本プログラムでは、霞地区7部局が一体となって、基本的な研究能力を備えた若手研究者を先進的な海外協力機関、特に近隣のアジア・環太平洋地域へ軸足として派遣することにより、研究能力のステップアップと国際的視野を涵養することを目的とし、大学院生も含めた人材育成及びグローバル化の推進を図っています。

6. 平成23年度特別経費(プロジェクト分)概算要求事項

「脳科学研究を基盤とした発達障害の行動科学研究プロジェクト」

平成23年度より採択となった本プロジェクトは、これまで主に障害児教育という中で行われてきた発達障害研究に対し、脳科学による最先端研究を行うとともに、その研究成果を環境も含めた支援という型に結び付け、かつそれらを担う人材を育成するものとなっています。

自閉症を含む発達障害は社会的にも大きな問題となっていますが、総合科学研究科、教育学研究科、工学研究院とも連携し、新たな発達障害支援プログラムの構築を目指しています。

7. 平成24年度特別経費(プロジェクト分)概算要求事項

「こころのストレス脆弱性克服のための医学・脳科学・教育学連携プロジェクト」

平成24年度より採択となった本プロジェクトでは、うつ病などのストレス性精神疾患の発症に関与するストレス脆弱性の脳内機構や分子基盤を解明し、早期診断法及び根本的治療法の開発を行うとともに、医学、脳科学、教育学の学際的研究により、脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服のための教育プログラム・治療プログラムを目指しています。

わが国の深刻な社会問題となっているうつ病などのストレス性精神疾患に対して、医療の現場における治療プログラムだけでなく、学校教育の現場で実施可能なストレス脆弱性克服のための教育プログラムを開発しようとする今回の取組は、精神医学、脳科学、心理学・学校教育学が連携できる本学ならではの機能を活かしたものであり、また教員養成においてトップレベルにある本学の伝統と実績を活かした取組ともなっています。

【お問い合わせ先】

広島大学医歯薬保健学研究科等総務支援グループ
TEL:082-257-5012、FAX:082-257-5615